
ラブストーリーは突然に

りいち

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ラブストーリーは突然に

【Nコード】

N1593I

【作者名】

りいち

【あらすじ】

第一印象は最高。の筈だった。
こんな運命もあるらしい。

どん

「いて」

「てえ」

不機嫌そうな声に思わずびくりと反応した。

クラスの友達との飲み会の帰り道、ほろ酔い気分であらふら歩いていてと前から歩いてきた男の子にぶつかったのだ。

おぼつかない足取りの私は肩がぶつかった瞬間、不覚にも足を取られて尻餅をついた。決して運動音痴なわけじゃない。あくまで酔っていたからなのだ。

「す、すいません」

そう言って顔を上げた瞬間、時が止まった。そこには偏差値が高いで有名な高校の制服を着た男の子がいたのだ。本来、私みたいなバカ高校の女なんか絶対に相手にされないであろう。

眉間に皺を寄せつつも、手を差しのべてくれる黒髪の彼が私にはきらきらと輝いて見える。なんて格好いいんだろう。

「大丈夫か、あんた」

第一印象は最高だった。

「早く立てよ、ブス」

……筈だった。

気付けば私は自力で立ち上がっていた。そして間髪入れず、黒髪の上に右ストレートを決める。全てが一瞬だった。

我に返った時にはもう何もかも手遅れ。彼は いてえ と呻いたあと、この世の地獄でも見たかのように私を睨み付ける。何すんだこの野郎とのことだった。

「だって今あんたブスって」

「本当のことだろ」

「はああ？」

「いや違う」

「え？」

「ブスつつたんだよ、ブス」

「はいどっちにしろ今言ったあ！」

「だからブスだって。絶対お前ボスの器だし」

「あんたおちよくってんの」

「じゃあ俺急いでるから」

あばよブス。彼がそう言って私の横を爽やかに通り過ぎようとした。すかさず私は彼の腕をがしりと掴む。程よい筋肉が更に男らしさを物語って……てちっがーう！（これが俗にいうノリっこみ）

「何だよ、離せよ」

「まだ謝ってもらってないんだけど」

「ぶつかってきたのはお前だけだな」

「ブスって暴言吐いたのはそっちだけだね」

「殴ってきたのもお前だけだな」

ちくしょう！

私の方が全体的に悪かった！

仕方ないので先に謝ることにした。渋々ながらも

「すみませんでした」

素直に（しかし棒読みで）そう言うとは彼は躊躇した表情を見せる。

そしてチツと舌打ちしたあとに一言。

「悪、かった、な」

言い方はぎこちないが、今度は私が目を丸くした。まさかこんなにすんなり謝ってくるとは。

「あ、え、いや、別に」

「ああ……じゃあ」

「うん」

「……」 「……」

「……あ、俺の連絡先いる？」

「え。まさかのこの流れで？」

「じゃあいいわ」

「え……あ。い、いる」

そこで初めて目にする、彼の柔らかい笑顔に胸が高鳴る。

ラブストーリーは突然に
（これもまた運命）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1593i/>

ラブストーリーは突然に

2010年10月28日07時34分発行